

広島県鉄構工業会が総会「働き方の改善を」

【広島】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳、副理事長＝松本英一）は26日広島市内のホテルで第44回通常総会を開催、54人が出席した。来賓として湯崎英彦・広島県知事が来場した。

冒頭、山本理事長は「鉄骨業界は日本に必要不可欠な業界だ。社会情勢がよい今こそ足元の需要を見ながら会社の運営を見直していかなければならない。」

日本全体は働き方の改善が求められている。労働者が休暇を増やしても賃金が増える仕組みを作っていく必要がある。そのためにはわれわれも力を合わせて地位や認知度を上げ、

後世まで自信を持って受け継いでいけるようにしたい」と話した。続いて湯崎知事があいさつに立ち、「昨年の4月に熊本地震、10月には鳥取中部地震が発生し、多くの建築物が

被害を受けた。広島県においてもあらためて建築物の安全性確保に尽力しなければならぬ。施設耐震化の取り組みは、2015年度末までに県有学校などで耐震化率100%を達成した。取り組みを始めた11年度当時は全国レベルで耐震化率は最下位に近い状況だったが、短期間で耐震化率向上を果たせたことは皆さまのおかげ、大変感謝している」と語った。

その後、各種議案の審議が行われ、17年度の事業計画として、青年部のさらなる活性化を目指し、バックアップしていくことなどを決めた。

総会では組合の発展に尽力したミツヤ工業の光村哲也会長が表彰され、山本理事長から代理の光村暢純社長に感謝状が手渡された。

あいさつする山本理事長



来賓の湯崎知事

